



「かまくら」は、^{なか ひ つか}中で火を使ってもなぜとけないの

「かまくら」は、^{ゆき へや}雪の部屋

「かまくら」は、^{あきたけん こしょうがつ たいひょうてき ぎょうじ こ}秋田県の小正月の代表的な行事です。^{たか}子どもたちが2メートルほどの高さに、^{ゆき はんえんけい つ あ なか へや つく}雪を半円形に積み上げてかため、中をくりぬいて、部屋を作ったものです。この「かまくら」は、^{あきたけんよこてし ゆうめい}秋田県横手市のものが有名です。

この部屋の中には、^{へや なか すいじんさま ひ や}水神様をまつり、ろうそくをともしたり、火ばちでもちを焼いたりおしるこを^{た おとな も まい く}食べたりします。また、大人たちが、さいせんやもちなどを持ってお参りに来ると、^こ子どもたちは、あまざけをふるまいます。

^{へや なか ゆき}部屋の中の雪はとけない

^{へや なか おんど どスー ひく さむ ひ こ}部屋の中の温度は、はじめ0度Cより低いのでとても寒く、冷え込んでいます。でも、^{なか ひと はい ひ つか}中に人が入り、ろうそくや火ばちなど火を使っていると、^{ゆき あつ くうき そと}しだいにあたたかくなってきます。雪のかべが^{そと}厚いので、あたたまった空気は外に^{くうき}にげず、また、外のつめたい空気をさえぎるので、^{へや なか さむ}部屋の中はあまり寒くはありません。

それでも、^{へや なか おんど ゆき}部屋の中の温度は、雪のかべをとかすほどのあたたかさにはなりません。

(監修 保岡孝之)

